

# 標本棚

私

と

虫

## 榛名神社の粽(ちまき)祭り

— 蚊除けの神事 —  
元東京都衛生局衛生害虫担当  
現・防虫研 秦 和寿

蚊(マシ)は縄文時代から毒蛇として人々を苦しめ、平成の現代でも毎年数百人が嘔まれています。

血清療法がありますが、毎年数名が命を落とし、予後が悪く後々まで腎機能に影響をおよぼしているようです。効果的な治療法のなかった時代には、神に祈り心の安寧を得ていました。

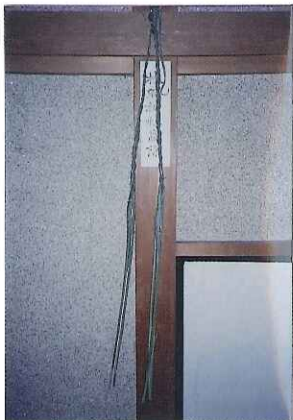
群馬県の榛名神社では、「粽祭り」という蛇除け(ながむしよけ)の神事が、毎年六月五日に行われます。

社殿では修祓、神饌(粽)を献上、祝詞、八乙女神楽、拝礼となり、お祓を受けたあとの粽を参拝者に授けます。

元来、粽は邪を払い、疫病退散などの意味があると言われます。転じて、鼠、虫を防ぎ、この祭りでは蚊除けが行われます。

この粽は一メートルほどの青々とした茅(ちがや)に蚊を想定して丸め蒸かした「しんこ団子」を一個包み込んだものです。

これを二本一組とし家に持ち帰り、粽は食べるか、家の神棚に下げておく慣わしがあります。



京都の祇園祭でも粽を各家の玄関に吊します。

榛名神社の粽祭りは養蚕が盛んだった頃が全盛期のお祭りで、現代ではひっそりとしたお祭りですが、こういった古式ゆかしいお祭りはいつまでも伝えてほしいものです。

写真は、榛名神社 蚊除けの礼と茅で吊した粽

## 私とムカデ

奥村防虫科学  
奥村 敏夫

四方を自然林と里山に囲まれた新興住宅地「箕面森町」が私のフィールドである。昨年は七十五頭、今年は五十六頭のトビズムカデを五月半ばから一ヶ月間に採集した。

ムカデは雌雄の識別が困難で、繁殖に成功しても産卵数は少なく、卵から成体まで三年を要し、捕食性ゆえに大量飼育が困難で、脱走と咬まれる危険を伴う。つまり、研究材料として不適な条件をこの上なく満たしているのである。



そこで私はムカデを根気の続く限り飼育してみることにした。好奇心と探究心のおもむくまま、自宅の部屋でムカデと昼夜を共にした。

妻と娘からは《変人》を通り越して《変態》

と軽蔑された。そして、一ヶ月もすると「ムカデ臭」が家中に充満した。独特な生臭い臭気とともに一家離散の危機が訪れた。修羅場である。飼育ケージの中には大量のムカデで戦場と化し、ついに己にも飛び火した。しかし、おかげで幾重にも降り注ぐ石火をくぐり抜け、手傷を負いながらも戦果を得ることに成功した。まだまだ検証の余地は残るものの、一応の目安として、雌雄判別方法ならびに大量飼育方法を自分なりに確立した。

今後大切なライフワークの一つとして、類稀な生命力を持つムカデに敬意を表しつつ、共に歩んで行きたいと思う。

最後に、こんな我がままで自由奔放な私を、陰で必死に支えてくれる妻と二人の愛娘に心より深謝申し上げます。次第である。

## 私と創作折り紙

国立感染症研究所  
昆虫医学部第一室・室長  
津田 良夫

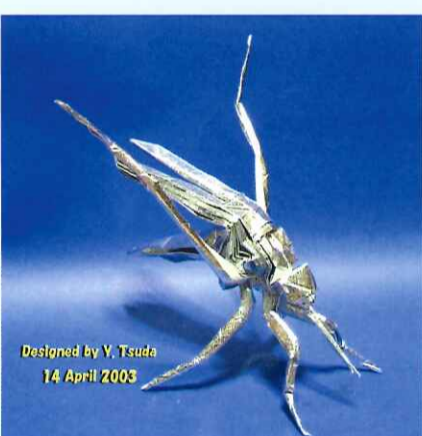
「創作折り紙」をご存知だろうか。虫でも花でも何でもいいのだが、これまで考案されてない独自の折り工程を考えて創作された、折り紙の作品を創作折り紙と呼んでいる。

私は小学生の頃から四十年以上この創作折り紙に興味にしている。特にきつかけがあったわけではないが、気がついたら折り紙を折っていた。ただし、創作を意識するようになったのは高校生のころだと思ふ。誰も考えたことがない独自のものを創り出すということに、喜びを感じることがようになった。

大学時代に日本折り紙協会が設立され機関誌「おりがみ」という雑誌が出版された。この雑誌は読者の投稿作品を募集していたので、気に入った作品を掲載して掲載してもらった。はじめは写真での紹介だったが、その後、折り図も掲載してもらえようになり、掲載されるのが嬉しくて、いろいろ作品を投稿した。

私の作品で一番人気があるのは「げた」で、折り紙仲間の間では「げたの津田」と呼ばれている。私が創作するのは動物が多く、最近では調査や研究で関わった虫や鳥などを折ることが多くなっている。アゲハチョウやダンゴムシは三十年以上の創作だがファンが多い。

私らしい新作というと、やはり「蚊」だろう。蚊の研究者になってから、ずっと折ってみたいと思いつつ、なかなかうまく折れなかったのだが、二〇〇三年にようやく気に入ったものができた。



筆者創作の折り紙「蚊」

## 羽音

私の作品はどれも一枚の正方形を折るだけで作る。不切一枚折りと呼ばれる折り紙で、この作品は複雑な折り上げのみに三時間はかかる。三十年以上前に折り紙の本を一冊出版したのだが、現在は絶版である。最近の作品を集めた二冊目の本を出版したいと思ひ、少しずつ折り図を描いている。

## 日本酒の話

大内病院創設者  
神奈川県病院協会理事  
大内 忠行

日本酒は、縄文時代晩期から弥生式時代にかけて、稲作と共に伝来したと言われる。稲作の伝来する以前は、穀類や芋を口で噛んで壺に入れて発酵させた「口噛み酒」が起源とされる。

日本では、神事の際に女性が、神事の前後に「一夜酒」とも呼ばれる唾液酒「口噛み酒」を造り、神前に捧げた。

「醸す」は「噛む」の転化で、今日、商家や職人の主婦を「かみさん」というのも、酒を醸す人ということから生まれた言葉だ。

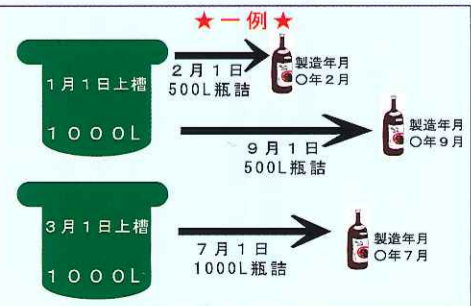
日本酒の醸造に適する米は、短粒・丸型でアミロースとアミロペクチンの比率が適当で、蛋白質が少なく、ビタミン、ミネラル、脂質等の栄養素が少なく、水を吸いやすく大粒で、その蒸米は麹菌の生えやすい性質を持つものが良い。酒造最適米は、

内地米の兵庫産「山田錦」、長野産「美山錦」、新潟産「五百万石」、岡山産「雄町」等が有名だ。神奈川県でも、愛知県で開発された「若水」が足柄地方で栽培されて、地酒の「丹沢山」「松美酒」等が醸造されている。

水は「銘水の涌く所には銘酒あり」と言われて、六甲山の深層水でカルシウム等を含む硬水で男酒になりやすい水と、京都の桃山丘陵下の伏流水でミネラルが少ない軟水で女酒になる水が有名だ。神奈川県の水は鉄分等がやや多く、深層までボーリングした水を利用して地酒を醸造している。鉄分は酒造用水では最



大の有害成分だ。日本酒を購入する時は、酒瓶に貼ってあるラベルを読むこと。特に製造年月日は、製造日ではなく、瓶に詰められた日が表示されているので、酒の管理が悪い店では、製造年月日が三ヶ月を経過している酒は、味の劣化が避けられないので要注意。酒は好きなものを選んで、冷やでも燗でも良い。全国で二千社はある蔵の銘柄を毎日飲んでも飲みきれない。日本酒の知識が増すと、また酒の鑑賞力が増し楽しいものだ。(長文のため、一部を抜粋編集しております)



### 147ヘルツの警鐘

法医昆虫学捜査官 川瀬七緒

147ヘルツの警鐘 法医昆虫学捜査官 川瀬七緒著 講談社 定価1,600円(税別)

刑事物のミステリーファンも思わずなること請け合いの新機軸の推理小説です。特に昆虫に知識があればある人ほど引き込まれ、場面描写の巧みさに臨場体感気分が一気に読破できるでしょう。虫が登場する小説は数多くありますが、この本のように、いきなり死体の解剖現場から物語が始まり、遺体の腹部から生きた大量のうじむしが出てくるという展開は、予想をはるかに超えて迫力満点。気の弱い人は読み進める気持ちを持て失うかも知れません。そこに登場するのが警察上層部から捜査権限を与えられた女性の法医昆虫学者。放火殺人犯を追う刑事とは別に、あくまで昆虫を追究する中で真相に迫って行きます。

全体に変わり者が次々登場するため、虫好きも一緒に変わり者と思われて困りますが、虫こそ正直者で真相を語ってくれるという主人公の信念には、誰もが共感してくれるはず。ところで、あなたには「はちのこ」を食べたことありますか？

### むしくわち

◆タテのかぎ  
①金属の表面を他の金属の薄膜で覆います。  
②そのままの状態を保ちます。  
③ラーメンや焼き芋などを路上売りする車。  
④酒はこれに限るね。甘いのはダメだよ。  
⑤1,000 kgは100。  
⑥隣りのは青く見えます。

◆ヨコのかぎ  
①初めましてと相手に渡す身分証明の紙。  
②夫はこの字には勝てません。  
③凝っちゃった〜。按摩して〜。  
④試み。挑戦。  
⑤流し台を英語で言うとは？  
⑥大型草食獣。大きな口を開けて。  
⑦ママは母、パパは……。

◆応募規定 ハガキまたはファクシミリで、答え、住所、氏名、当社との関係を明記の上、ご応募ください。  
〒105-0014 東京都港区芝2の23の4  
アペックス産業(株)内 APEX CLUB宛  
ファクシミリ番号 03-3455-6558  
締切は平成25年2月28日(木)(当日消印有効)  
正解者の中から抽選で若干名様に記念品を差し上げます。  
★前号の正解者と当選者(順不同)  
正解は『ペア』でした。  
当選者: 川崎めぐみ、横田純子、坂本英子の3名様です。